



かしはら  
第167号

平成27年  
紀元2675年

- ・ 宮司ごあいさつ
- ・ 近づく神武天皇二千六百年祭
- ・ 御屋根葺替
- ・ 御奉賛についての御案内

## ごあいさつ

「かしはら」（当時）が創刊されたのは終戦から一年余過ぎた、昭和二十一年十月十一日であります。未曾有の敗戦という事実により国内は混乱し、国民の生活も未だ困窮を極めていた時代であります。

神社界にとりましても前年十二月十五日に所謂「神道指令」が発令され国家と神社が分離、以後神社神道は他の宗教と同じく、一宗教として歩むこととなります。そして昭和二十一年一月三日、神社人総意のもとに全国神社の包括団体として、伊勢神宮を本宗と仰ぐ「神社本庁」が設立されました。占領下の日本、激動変革の時代にあって神社を守るの一心で事に当たった先人のご努力には、口では言い表せられないものがあります。

創刊号では高階研一宮司の発刊のことばで始まり、新しい時代を迎えて、国民は如何にすべきか、また日本人は如何にあるべきか、今後の檜原神宮の展望が述べられており、その中でも高階宮司は明治天皇の大御心に沿つて、平和民主主義の健全なる発達に力を致さねばならないと述べられ、更に他の誌面記事では檜原神宮が如何に国民と同じ士族にあるかを、記されているのであります。

第二号以降の「かしはら」は神道学術系の機関紙としての内容を立ち上げ、一方「檜原だより」という葉書大のものを発行し、四季折々の神宮の行事や出来事等を紹介して参りましたが、程なくして「かしはら」「檜原だより」が一本化され、神道学術系のみの分野が今日の社報「かしはら」の主体となつておりました。

然しながら、今後御崇敬戴く皆様方に広く、檜原神宮のことを知つて戴きたく、二年程の休刊を経てここに新たな「かしはら」誌を皆様のお手元にお届けすることとなりました。

これによつて、広く檜原神宮のこと或いは神社神道のことどもを知つて戴く機会になれば、幸いと存じます。

檜原神宮では朝な夕な皆様のご平安をお祈り致しております。



第二十代

檜原神宮 宮司 久保田 昌孝

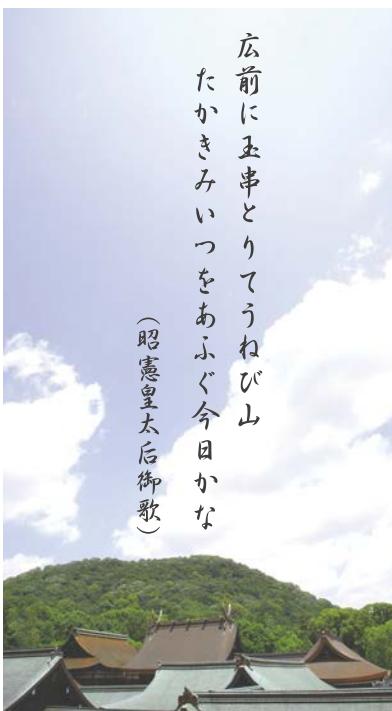
# 近づく神武天皇二千六百年祭

来る紀元二千六百七十六年、平成二十八年四月三日は、神武天皇崩御二千六百年祭の年となります。

この神武天皇祭の淵源は、幕末、孝明天皇の観慮の下、神武天皇陵の修陵事業によって実現された、勅使差遣陵前祭典（三月十一日と御治定）及び宮中御拝の儀に求められます。

慶応三年十二月九日、王政復古の大号令が発せられ「神武復古」の明治維新が成就し、翌四年三月十一日（明治改元は九月八日）、先帝の御治定通り、御「新第一回目の神武天皇祭」が行われました（祭日は同五年の太陽暦への改暦に伴い四月三日に変更されます）。

次いで、事実上の東京遷都となり、明治二年「賢所」も東京の宮城に遷座し、やがて明治二十二年一月九日には、宮中三殿（賢所・皇靈殿・神殿）が完成致します。



（昭憲皇后御歌）

広前に玉串とりてうねび山

たかきみいつをあふぐ今日かな

## 記念事業内容

- 一、神武天皇二千六百年大祭並びに本殿遷座祭以下諸祭典斎行
- 一、御本殿松皮屋根葺替並びに修復
- 一、御本殿内御神宝新調並びに修復
- 一、内陣調度品調製
- 一、神武天皇宣揚書籍記念出版
- 一、表参道・北参道・西参道鳥居修復
- 一、境内社殿洗浄
- 一、勅使館内部改修
- 一、奉祝行事執行



神武天皇祭は、ここに宮中皇靈殿に於ける天皇御親祭の大祭とされ（御陵には勅使御差遣）、さらに百年毎の式年祭は、陵所に行幸の上御親祭と定められ（明治四十一年「皇室祭祀令」）、大正五年の神武天皇二千五百年祭には、大正天皇は、歛傍御陵に行幸の上御親祭遊ばされ、さらに明治二十三年に御創建の当神宮に御参拝になられました。

権原神宮に於ける神武天皇祭は、大正三年勅令により「官国幣社以下祭祀令」が公布され、「神社に特別由緒ある祭祀」として中祭に準じて斎行されることになり、大正五年の神武天皇二千五百年祭には、大正天皇行幸の下、臨時大祭が斎行されております。今や、それから百年になろうとしています。当神宮に於いても、毎年四月三日の神武天皇祭とは事改まって、謹んで報賽の誠を尽くすため、銳意準備を進めています。



# 御屋根葺替

## 御本殿について

橿原神宮の御本殿は、明治二十三年の御鎮座に際し明治天皇の御聖慮により、御下賜された元京都御所の賢所です。賢所とは宮中において皇祖天照大御神を奉斎し、御神鏡を奉安する御殿であり、内侍所とも呼ばれていました。現在の建物は安政二年建造のものです。柱及び縁東とも丸柱に仕上げ四周に高い縁を廻らし高欄を設け、南端一間には蔀戸しとみどを持つ建造物で高雅な宮殿建築を良く伝えています。明治三十五年特別保護建造物に指定され昭和二十五年文化財保護法施行に伴い重要文化財とされました。明治二十二年の移建後、明治三十六年に大修理を施し、昭和十二年には紀元二千六百年奉祝事業に先駆けて、屋根葺替え及び部分修理が行われました。続いて御鎮座九十年を控えた昭和五十二年に御屋根葺替え工事が執り行われました。

## 仮殿遷座祭について

御本殿を修造するに伴つて、御神靈の御動座を譲仕する重儀であります。昭和五十二年の修造より既に三十七年が経過して檜皮葺御屋根替えの時期に到達致しましたので、国庫補助を得まして御修理を行うことと相成りました。仮殿遷座祭は、昨年十月二十九日午後七時を期して斎行されました。宮司以下御羽車奉戴神職は衣冠單に布明衣を著装して、冠に木綿鬘を、肩には木綿襷を結び威儀を整え、総勢四十名の奉仕者は夕闇の中松明に照らされて外拝殿、内庭へと進み御本殿前庭に参進、先ず宮司

一拝、次に御本殿の開扉、続いて遷御の旨を奏する宮司の祝詞奏上、次に召立の儀があり、供奉員に威儀物が手渡され渡御列が正された後に、絹垣に囲まれた「御」を中心には遷御の御列が整えられました。笏拍子の合図により、全ての灯りが消灯され、参百人を越える参列者、奉拝者が見守る中、御遷御の御列が静かに進み始めた境内は陰燈の灯りに微かに照らされて、秋時に三日月のほのかな月明かりに映し出される厳肅な美しさのもと、静かに歩を進め仮殿に充てられた幣殿に入御なられ、召立の儀も押し込み御神靈と共に御神宝も仮殿内に奉安申し上げました。仮殿大前では諸祭儀が続いて執り行われ、全ての祭儀は恙なく仕え奉り畢りぬ。午後九時、畠傍山も夜陰に抱かれ泰然と浮かべるその姿を仰ぎ見ながら退下となりました。



御本殿



仮殿遷座祭

## 御奉賛の御案内について

当神宮では現在、全国にわたりて御崇敬の方々に、神武様の鑽仰と建国創業の理想とその御神徳をおうけ頂くために、毎年

紀元祭（二月十二日建国記念日）・神武天皇祭（四月三日）・秋季大祭（十月三日）斎行に際し、皆様方の御奉賛により、盛大な祭典を御奉仕申し上げております。また、正月の開運招福新春初祈祷、六月三十日から七月一日の夏越大祓祈祷への御奉賛に

より、神武様の神威の発揚のもと国民の皆様が幸福な生活を営まれますよう御祈願申し上げております。当神宮は、全国津々浦々の御崇敬・御奉賛の方々によつて祭祀の嚴修と維持運営を期してまいりました。ぜひ当神宮の崇敬会奉賛者の一人として御参加頂き、神武様の宏大無辺の御神徳を景仰して頂

きますよう御案内  
申し上げます。



紀元祭



新春初祈祷



神武天皇祭



仮殿遷座祭



上げます。

奇しくも平成二十八年（神武建国紀元二六七六年）四月には神武天皇がこの檜原宮にて崩御されます。当神宮と致しましては御祭神の聖徳を顕彰すると共に、建国の聖地であるこの檜原の地が、新しい時代を歩む人々の再出発の地となりますよう、神武天皇二千六百年大祭斎行と数々の特別記念事業を計画、現在執行いたしております。何卒今事業に御理解と御協力を頂きますれば有り難き仕合せに存じ

檜原神宮の御祭神であります神武天皇様は、畝傍山麓檜原に奠都されてより、「皇孫養正」即ち徳を以つて民を慈しみ、清く正しい政治を行うという精神と、「八紘為宇」とある世界民族の共生共榮和平親愛の精神を持たれまして國の基を開かれました。以後先人達は国難となると、常に神武建国の精神に立ち返り数々の苦しい時代を乗り越えてまいりました。経済、環境、災害などへの不安と、道徳教育の形骸化により世情は混迷し我国の精華をも忘れ去られようとする危機的状態にある現代、我国の興隆と人々の未来永劫の幸福の為にも、この精神を永く後世に伝えていかなければならぬと痛感致しております。

## 神武天皇二千六百年大祭奉賛

より、二千六百年という節目の年を迎えます。当神宮と致しましては御祭神の聖徳を顕彰すると共に、建国の聖地で

あります。何卒今事業に御理解と御協力を頂きますれば有り難き仕合せに存じ

# 行事報告

## 御田植祭(六月十六日)

写真①

神饌田斎庭にて御年の神(穀物の神)をお祀りし、稻の早苗を植えて、五穀豊穣を祈念する祭典が執り行われました。

斎主が神明に奉告の後、作長と呼ばれる耕作者が苗を授けられ、その苗を神饌田に御田植えします。

十一月二十三日の新嘗祭に御神前に御供えされます。  
御田植えされた苗は、秋の抜穂祭を経て、十一月に刈入れられ、

## 夏越大祓並びに夏越祈祷(六月三十日)

## 幣殿並びに鳥居洗浄作業(七月三日より)

写真②

神武天皇一千六百年大祭を前に幣殿から開始され複廊と続き、各参道の鳥居へと進められた作業は、御鎮座九十年祭を記念して行われて以来、三十七年ぶりの事業となります。  
褐色に日焼けした素木造りの御社殿を蘇らせ、清々しい気持ちで御参拝頂ける様にと執り行われました。

## 神樂講習(七月十七日～二十日)

写真③

神社音楽協会の先崎徑子先生をお迎えして、檜原神宮会館において、神樂講習が行われました。

講習会では、檜原神宮の神楽である扇舞・榊舞・鈴舞と昭和天皇の御製に作譜・振り付けされた浦安の舞が行われ、日々奉仕して行くうちに身に付いてしまった癖等を修正された巫女達は、和やかな中にも熱心に舞の研鑽に励んでいました。

## 第六十五回林間学園(八月一日～五日)



②幣殿並びに鳥居洗浄作業



①御田植祭



南神門前広場に祭場を設けて大祓が

斎行されました。

大祓は、我々日本人の伝統的な考え方に基づくもので、常に清らかな気持ちで日々の生活に勤しむよう、自らの心身の穢れ、そのほか、災厄の原因となる諸々の罪過ちを祓い清める神事です。当日、県内はもとより、近畿各地より約三百名もの御崇敬の方々の参列があり、私たちが日々知らず知らずに犯してしまった罪穢れを人形に託しました。

また、夏越祈祷は大祓にて清々しい身に立ち返った後、次の半年間の無病息災・家運隆昌を祈願する神事で、七月一日に神楽殿にて斎行され、約百名もの御参列がありました。

最終日は神宮会館で閉園式。その後、音楽教室の子供達による合奏合唱が行われ、五日間の学習成果を披露し、他の教室の子供達や保護者から喝采を浴びました。続いて若手神職・巫女による紙芝居、「神武天皇」と「因幡の白兎」の鑑賞会が開催されました。また、ロビーでは、歴史図工科学教室の作品が展示され保護



③神樂講習

者らが子供達の作品に熱い視線を注いでいました。

写真④

### 秋季大祭(十月三日)

御祭神・神武天皇による広大無辺の御神恩に奉謝し、国家の弥栄と国民の平安、また全国崇敬者の家運隆昌と無病息災を祈願する祭典が執り行われました。

この祭典は、秋の神武さんとして多くの人に親しまれており、平日にも拘わらず約四五〇名もの参列があり、御神前では四人の巫女による厳かな浦安の舞が奏されました。

祭典終了後には、九月一日付けを以て任命された新宮司の就任挨拶と、神武天皇二千六百年大祭事業について御支援、御協力を懇請申し上げました。

### 抜穂祭斎行(十月十六日)

台風の影響で心配された神饌田の稻穂もたわわに稔り、神饌田斎庭にて御歳の神をお祀りして斎行されました。

刈り取られた稲は、懸税として新嘗祭に御神前に奉られ、その後、朝夕の祭典を始め、諸祭典に御供えされます。また、収穫された梗米(ひのひかり)より祭典に御供えされる御神酒「かむやまと」も醸造されます。

### 権原菊花展(十月二十日～十一月二十三日)

恒例の菊花展が権原神宮外拝殿前で開催されました。

菊花愛好者が丹精込めて育て上げた見事な菊花は、それはすばらしく、訪れた人びとの目を楽しませてくれました。



菊花展品評会は十一日三日に行われ、総合花壇、三本立ち花壇、懸崖盆栽、ダルマ花壇、福助花壇などの部門で競われ、総理大臣賞、農林水産大臣賞などが選ばれました。

写真⑤

### 農産物品評会並びに農業祭(十一月二十二日～二十三日)

権原神宮外拝殿前にて、五十九年ぶりに執り行われました。この催しは昭和二十九年に始まり、第三回からは市の体育馆にて開催されていたものです。

特選に選ばれた十四点の農産物は新嘗祭に奉獻され、出品者達も祭典に参列し代表者の玉串奉奠に合わせて拝礼、神恩に感謝申し上げました。

農業祭は二十三日、土間殿にてオープニングセレモニーの和太鼓で幕を開け、外拝殿前のテントには農産物の展示コーナーや販売、また関係団体の模擬店・農業相談コーナー・福引きコーナー等設置され、三連休の休日と相まって、七五三詣りの親子連れや観光で訪れた参拝者で終日賑わいを見せっていました。

農業祭は二十三日、土間殿にてオープニングセレモニーの和太鼓で幕を開け、外拝殿前のテントには農産物の展示コーナーや販売、また関係団体の模擬店・農業相談コーナー・福引きコーナー等設置され、三連休の休日と相まって、七五三詣りの親子連れや観光で訪れた参拝者で終日賑わいを見せっていました。

### 乙未大絵馬完成(十一月二十九日～三十日)

大絵馬は皇太子殿下の御誕生(昭和三十五年)を奉祝記念して製作されており、今回で五十六回目になります。

貼り替え作業には、作者の日本画家藤本静宏画伯も立ち会われ、「今年は災害が多い年であり、新年は大人しいヒツジにあやかり、ゆっくりとしたのんびり過ごせる平和な年でありますように」という願いを込めて描いた」と話されました。

完成後には大絵馬の清祓が執り行われ、訪れた参拝者は年賀状にと撮影している姿がみられ、迎春ムードを漂わせていました。



⑥乙未大絵馬完成



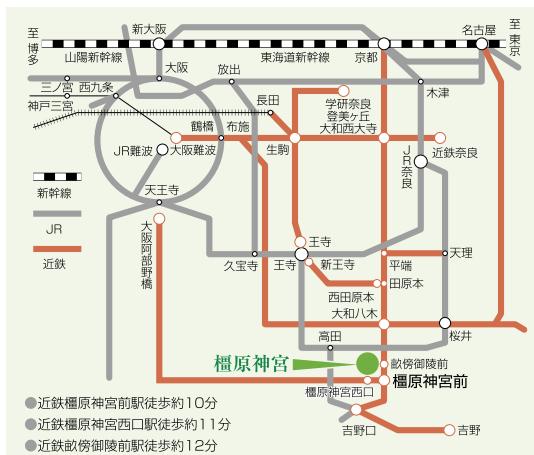
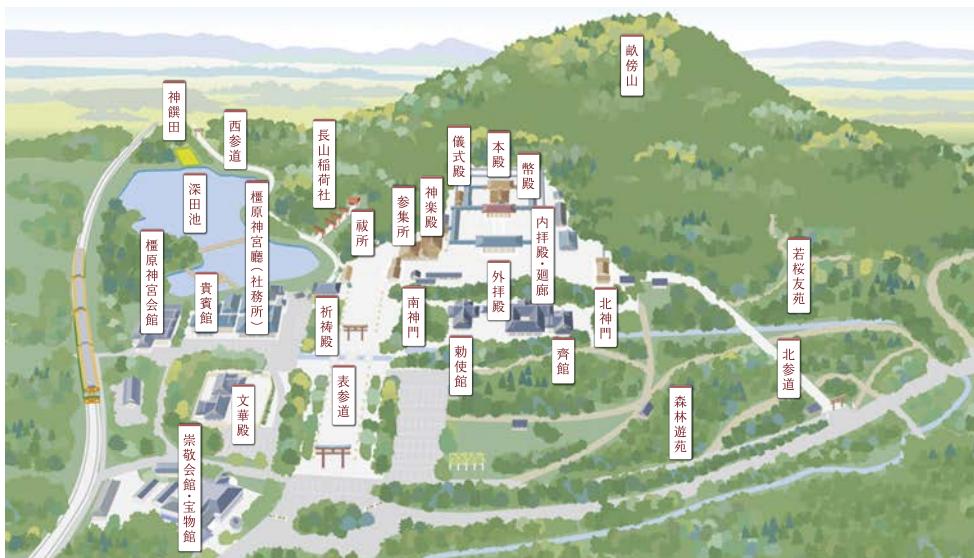
⑤農産物品評会並びに農業祭



④秋季大祭

## 平成二十七年行事予定（四月～九月）

四月二日(木)	御鎮座記念祭	十時斎行
四月三日(金)	神武天皇祭	十時斎行
四月十二日(日)	国柄奉納	十三時斎行
四月十三日(月)～四月十八日(土)	春の神武祭として 境内のライトアップ	十一時斎行
四月中旬	下種祭	十時斎行
四月二十九日(水)	昭和祭	十一時斎行
五月二日(土)	長山稻荷社例祭	十一時斎行
五月五日(火)	有楽流献茶祭	十時斎行
五月十二日(火)	初鮎奉獻祭	十一時斎行
六月中旬	御田植祭	十時斎行
六月三十日(火)	夏越大祓	十五時斎行
七月一日(水)	夏越祈禱	十一時斎行
七月中旬	神樂講習会	九時～十六時
八月一日前	第六十六回林間学園	八時五十分～十五時三十分
八月中旬	指定神社実習	十七時斎行
九月九日(水)	献燈祭	



「ホームページを開設」

昨年の年末に櫛原神宮のホームページへ  
ジを新たに立ち上げました。  
来る平成二十八年四月三日に神武天皇  
二千六百年大祭を迎えるに当たり、その  
記念事業を皆様に御報告すると共に、櫛  
原神宮をより多くの方々に知つていただき、  
き、櫛原神宮との御神縁を深めていただ  
くため、公式ホームページにて情報を発  
信していきますので、是非御覧いただき  
たく存じます。

<http://kashiharajingu.or.jp>